

英語学習者の スピーキングパフォーマンスの ビデオ映像を活用した授業実践

岡田 靖子（埼玉女子短期大学）

いとう たけひこ（和光大学）

澤海 崇文（流通経済大学）

外国語教育メディア学会関東支部第140回研究大会

城西大学紀尾井町キャンパス3号棟3204教室 2018年11月24日10:35-11:05

背景と先行研究

1. 本研究の背景

- 観察学習 (Bandura, 1971, 1977)
- アクティブラーニング (溝上, 2014)

2. 先行研究

学習者は母語話者ではなく、非母語話者モデルからスピーチの発話や伝達を学ぶことが可能である (Adams, 2004, p. 126).

本発表の目的

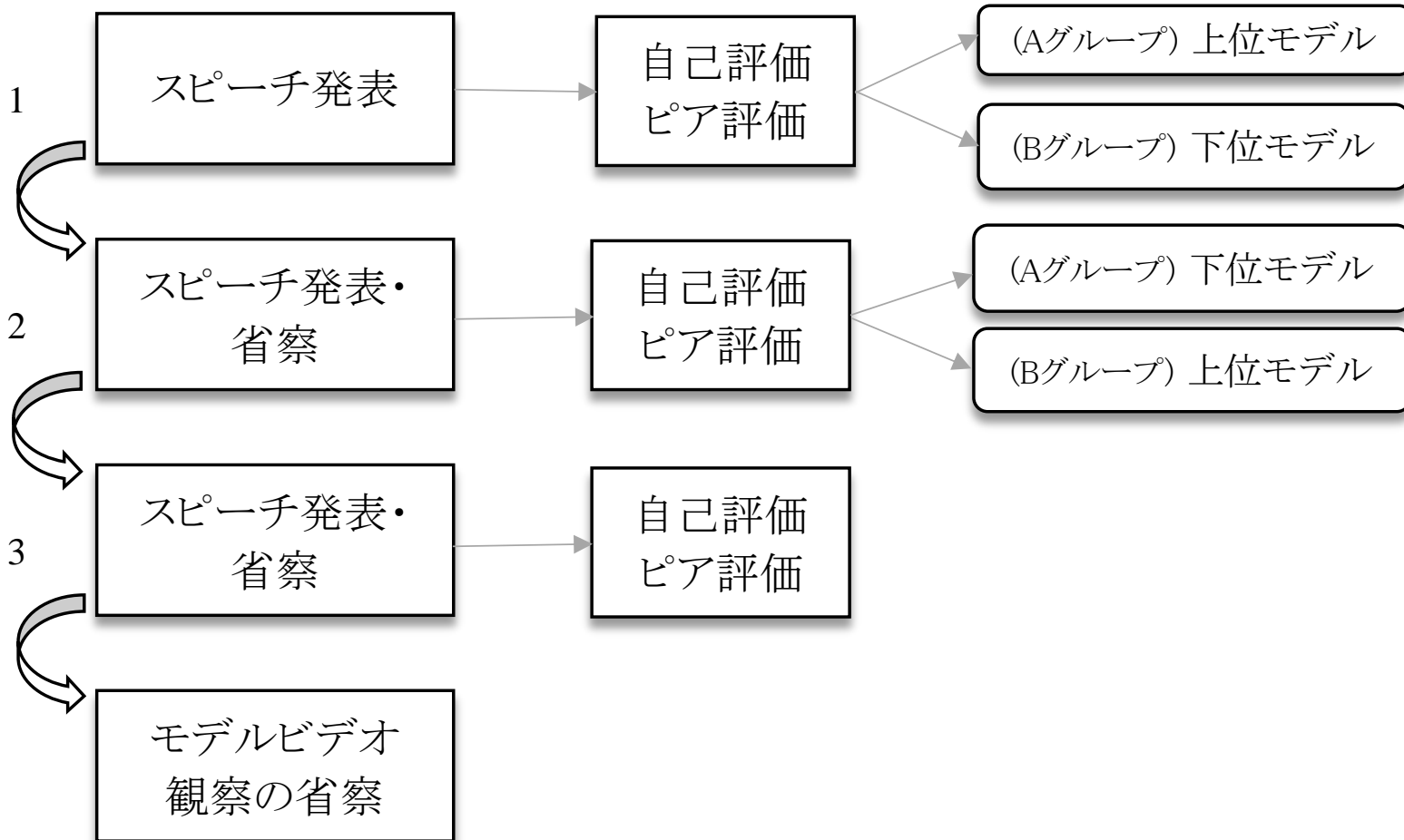
1. 学習者のビデオ映像を使用した授業実践の報告
2. 実際に授業で使用したビデオ映像の紹介

ビデオ映像の収集 (2013・2014年度)

- 岡田が担当した授業でスピーチ指導
- 英語コミュニケーションクラス (複数)
- スピーチ関連の指導を帯活動として導入 (アイコンタクト、姿勢、手足の位置、文のアクセント、声の大きさ)
- スピーチ内容を暗記
- 180-200単語で原稿作成 (教師によるフィードバック1回実施)

ビデオを用いた指導手順 (2015-2017年度)

ビデオによる観察学習



学習者モデルの例 (合計約10分間)

- 英語力の低い学習者モデル (2例)
- 英語力の高い学習者モデル (2例)

[ここでビデオ映像を流す]

学習者モデルの活用効果

- ピア以外の学習者映像をモデルとして視聴すると、学習者の内集団バイアス*が排除される
- その結果、映像をより客観的に視聴することが可能である

*自分が所属している集団を所属していない集団より好意的に評価すること

参考文献

- Okada, Y., Sawaumi, T., & Ito, T. (2014). Different effects of sample performance observation between high and low level English learners. In M. K. Aishah, S. K. Bhatt, W. M. Chan, S. W. Chi, K. W. Chin, S. Klayklung, M. Nagami, J. W. Sew, T. Suthiwan, & I. Walker (Eds.), *Knowledge, skills and competencies in foreign language education* (pp. 394–413). Singapore: NUS Centre for Language Studies.
- Okada, Y., Sawaumi, T., & Ito, T. (2017). Effects of observing model video presentations on Japanese EFL learners' oral performance. *Electronic Journal of Foreign Language Teaching*, 14(2), 129–144.
- Okada, Y., Sawaumi, T., & Ito, T. (2018). How do speech model proficiency and viewing order affect Japanese EFL learners' speaking performances? *CALL-EJ*, 19(2), 61–81.
- 岡田靖子・澤海崇文・いとうたけひこ (2018). 「英語授業におけるビデオ映像を活用したアクティブラーニング」 『外国語教育メディア学会関東支部研究紀要』 2, 23–37.
- Okada, Y., Sawaumi, T., & Ito, T. (in press). A replication of Okada, Sawaumi, and Ito (2017): Effects of viewing speaker videos by proficiency order on Japanese EFL learners' speaking skills. *Electronic Journal of Foreign Language Teaching*.
- 岡田靖子・澤海崇文・いとうたけひこ・藤井勉 (2016). 「達成目標理論研究の概観と英語オーラルプレゼンテーション指導への示唆」 『日本大学経済学部研究紀要』 82, 59–72.